

Title	所謂る通貨収縮論の真価
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.10 (1918. 10) ,p.1391(63)- 1408(80)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181001-0063

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第六十一條 其の本國軍艦の護送を受くる中立船に對しては臨檢を免除す護送軍艦指揮官は交戰國軍艦指揮官の請求あるときは其の船舶の性質及載貨に付て臨檢に依りて知るを得べき總ての情報を書面を以て通知す可し

第六十二條 交戰國軍艦指揮官にして護送軍艦指揮官の欺かれ居ることを疑ふことあるときは嫌疑の旨を護送軍艦指揮官に通知す可し此の場合に於て檢證を行ふは護送軍艦指揮官に限るものとす右檢證の結果は之を調書に作り其の謄本一通を交戰國軍艦士官に交付すへし右檢證の事實に依り護送軍艦指揮官に於て其護送船舶の一隻又は數隻を拿捕するに相當なる事實ありと認むるときは此等の船舶に對しては軍艦護送の保證を撤回す

(註二) 爾後佛國は南北兩米諸共和國との六條約に於て臨檢免除の原則を承認し米國亦十三條約の中に之を規定したり此條約の中にて二例外(瑞典と伊太利)とを除くの外、凡て同大陸諸國相互間に締結せられたるものなり(Hall, International Law, 5th. edition, p. 723) 然らば英國は如何なる理由に依りて其多年傳來の主義を斯く一朝にして放棄するに至りたりや。是れ多少詳しく説明を要する所なり。

所謂る通貨收縮論の眞價

氣 賀 勘 重

時局發生以來我國に於ける諸物價漸騰の傾向を示すと共に好景氣の風潮は産業界各方面を潤ふし、經濟社會は一般に歡喜の聲に充つるの觀ありしも、昨春以來物價騰貴の傾向急潮を示し、生活必需品の騰貴殊に著しきを致すに及びて生活難の聲漸く消費者階級各方面に起り、物價調節の必要先づ言論社會に喧傳せらるゝに至れり。斯くて本年に入り物價騰貴の傾向は益々著しく、生活に對する其壓迫益々甚だしきを加ふるに及び、物價調節に關する種々の方策提唱せらるゝと共に政府當局亦其必要を認めて米價の調節を初め種々なる生活必需品に對する價格調節の方策を立案し又之を實施するものありしも、其效果殆ど見る可きものなく物價の趨勢は依然として今尚ほ騰貴の傾向を持續せり。是に於てか、春期以來一

部の論者に依りて唱へられたる通貨收縮論漸く廣く各方面の人士の注目する所と爲り、物價調節の根本策として其實行の必要を唱ふる者最近に至りて著しく増加せるの状あり。即ち一部の學者政論家の之を唱ふるのみならず、貴族院各派代表者の現内閣に對する警告中にすら特に此一策を擧げて物價調節の爲に之に類する政策を速に確立實行するの必要を説くを見るに至る。其状恰も通貨の膨脹を以て最近に於ける物價騰貴の主要なる原因と認め、此原因の消除に依りて其騰貴の勢を防ぎ之を逆轉して物價を従前の平靜状態に歸着せしめ得可きものと爲すに似たり。

通貨の數量の多寡を以て一般物價の高低の主因と見做せる所謂の貨幣數量説の當否は兎に角、單純なる經濟的理論の上より觀れば各種の貨物全般の上には現はるゝ價格の騰貴は一般の購買力の増進せる結果に外ならず。詳言すれば貨物供給の方面に於て増減なき場合に、其一般の價格騰貴するは其需要の増加即ち一般の購買能力の増進せるが爲に外ならず。然るに此購買能力は社會各員が貨物に對する對價物件として提供し得可き通貨の多寡に依りて代表せられ、而して社會

各員の提供し得可き通貨の多少は其人の現に所有せる通貨又は信用に依りて處理し得可き通貨の數量に依りて限定せらるゝの實あり。然るに各員が此信用に依りて處理し得可き通貨の多寡は又其一方に於て社會に流通する通貨の多少に依りて制限せらるゝの實あるより觀れば、結局一定の時に於ける一般の購買力の多少は縱令其社會に存在する通貨の數量に正比例せずとするも、大體に於て其通貨の數量の増減に隨伴するの傾向を示す可きは疑を容る可らず。此見地よりして我國最近の經濟社會を觀れば、時局以來幾多の方面に於て生産増加し供給増加せるの實あるは争ふ可らずと雖も、其一方には多少生産の減少せる物あり、又輸出の増加に依りて内國に於ける其供給の減少せる貨物も決して少なしとせず、從て各種の貨物全般を通じて之を觀れば其供給が著しく増大せりとは思はれざる。と共に、生産に投せらるゝ勞力及び資本の上より觀るも實際に貨物全般の供給が戰前に比して數倍せりとは信ずるを得ず。概觀すれば貨物實際の存在量は従前と殆ど大差なきを想像せしむるの有姿なるに、然るに一方に於て通貨の状態を觀れば其數量は僅々三四年間に殆ど三倍せるの實あり。加ふるに通貨膨脹時の常

として信用亦膨脹し、通貨流通の速度をして一層迅速ならしめたるの結果、社會各員の一定時に於て處理し得可き通貨の數量は遙に通貨數量の増加以上に増加せるの状なきに非ず。由是觀之、世人が一般的物價騰貴の原因を通貨の膨脹の裡に認むる眞に其故なきに非ざるなり。

加ふるに我國の最近に於ける此兩事實の比較對照は亦推定の正當なるを示せるの觀なきに非ず。即ち大正三年大戰開始以來各月に於ける日本銀行調査の重要商品價格指數と通貨の數量とを採りて之れを比較對照すれば、各種の商品それとの間には多少異なれる高低の跡を見る可しと雖も、指數全般の平均數の増減と通貨數量の増減との間には顯著なる一致平行の事實あるを發見す可し。試に此兩種の數字を取りて之を野線圖面に翻譯せば、爾餘多數の通貨膨脹の場合に見ると等しく双方の高低線の殆ど全く平行して屈折するを認む可し。最近に於ける物價騰貴の原因を通貨膨脹に歸し、通貨の收縮を以て物價調節の根本政策と認むる世論の勃興一見眞に不當ならざるを覺えざるを得ざるなり。

二

然れど翻つて之を觀れば今日の物價騰貴が果して其本源を通貨の膨脹に發せるものなるや否や既に多少の疑なきを得ず。物價の騰貴と通貨の膨脹とは由來常に平行するの實ありと雖も、單に此平行の故を以て直に前者は後者の結果なりと速斷するは少しく早計に失せり。時としては前者の事實先づ起りて後者の發生を強ゆるの實あることなきに非ず。斯る場合に於て強ひて通貨の緊縮を敢行し一度高騰せる物價を急激に抑壓せんとするが如きは、例令ば信用界の恐慌に依りて生せる産業上の危機に臨み餘儀なく増發せる兌換券を急速に緊縮せんとする場合の如く、著しく産業界の平穩を破りて其壞亂を起すの憂なきに非ざるなり。併し物價騰貴の原因に就ては假りに一步を譲りて敢て復た問ふことなく、世上幾多の通貨緊縮論者の所説に従ひ國民生活の不安を除き其困難を救濟するの主旨よりして通貨收縮物價引下の必要ありとするも、其收縮の方法並に其影響を顧念する時は吾人は更に幾多の疑なきを得ず。蓋し通貨の緊縮に依りて一般物價の平準を低下せしめんとするは一見事頗る簡單なるが如きも、其影響の及ぶ所は決して單純なるものに非ず、其緊縮の效果亦世人の想像するが如く簡單に實現し來

るものに非ざればなり。

試に通貨緊縮の方法を考ふれば公債若しくは債券の募集に依りて内國の資金を引上げ之を海外に放資するか、將た或は企業家の手に依りて直接に内國資本を外國に放資せしむるか若しくは大に輸入を奨勵して通貨の流出を謀るの外ある可らず。政府の手に依り通貨の一大部分を國庫に吸収して之を死藏するが如き蓋し言ふ可くして行ふ可らざるの愚策に外ならず、而して輸入の奨勵亦頗る國民經濟將來の發達の爲に疑ふ可きの施設なるが上に、交易の障害今日の如く、先進工業國に於ける物資の欠乏現下の如く頗る甚だしきの時に於て到底實現し得可からざることなりとせば、通貨收縮の途は内國資金の海外放出の外到底他に其途を求む可らざるなり。然れば現下の通貨收縮論者の唱ふる方法も亦概ね此外に出でざるものゝ如く、即ち或は此際に於て充分に内債を募集して外債償還を執行す可しといひ、或は大に國債を起して聯合交戰國の國債に應ず可しといひ、或は充分に對支放資を敢行す可しといひ、將た或は國庫證券を發行して充分に爲替資金を供給し且つ一方に於ては大に海外放資を奨勵す可しといふ、何れも皆其類なり。

其他或は大に國債を起して民間の資金を吸収し之を以て軍備擴張其他政府事業遂行の用に供す可しと云ひ、或は大規模出兵の斷行軍費支辨に供す可しとの説を爲す者あれども、斯の如きは民間の資金を政府の掌裡に移し、民間の購買力を減ずると共に政府の購買力を増加するものに過ぎず、通貨收縮の策として將た又物價調節の策として何等の效果あるものに非ず、寧ろ各種貨物の間に於ける從來の需要供給の均衡を攪亂して却つて物價の騰貴と通貨の膨脹を惹起するの一因たらざるを保せざる可し。

要するに今日に於ける正常なる通貨收縮の方策は内國資本海外放下の一途あるのみ。而して斯の如く内國の資本を吸収して之を海外に放下するに於ては内國に於ける購買力は其放下資本丈は直接に減殺せらるゝの計算なり。即ち若し其資本にして内國に残留せんか或は新事業設立又は舊事業擴張の資金として原料補助材料其他の購買の資源と爲り、將た或は信用に依りて各種購買希望者の手に入り、若しくは勞働者雇傭の資金と爲りて勞働者の手に入りて此に新なる購買力と爲る可き次第なるも、一度此の資本の海外に輸出せらるゝ以上復た斯る購

買力と爲ることなかる可ければなり。併し海外放資の効果は單に之れに止まらず。内國市場に於ける此資本減少の結果は又一方に於て資本の需要に對する其供給の均衡を破り其供給の減少は自ら金利の騰貴を促さざるを得ず。否な實際に於ては其海外放資金の吸収に際して既に其需要供給の均衡を破りて之を吸収せざるを得ざるの關係上、吸收當局者先づ金利の引上を斷行せざるを得ざるの常なり。近來我が外國爲替銀行が爲替資金調達の爲に異常の預金利子引上を行ひ、只管其資金の吸収に苦心せるが如き正に其實例に外ならず。而して此金利の騰貴は海外に放下せんとするの額愈々多きに從ひ、否な内國の資金を吸収せんとするの額愈々加はるに從ひ其勢益々加はらざるを得ず。最近に於ける我が海外放資額決して少なきに非ざりしと雖も、其一方に於ける輸出超過額は更に大なるものあり。従つて其放資は敢て内國に於ける資本市場の均衡を動かすに至らざりしと雖も、今若し論者の言の如く現在の通貨に二三億の緊縮を生せしむる程に多額なる海外放資の資金を吸収せんとせば、勢ひ金融市場の從來の均衡は大に攪亂さるゝを免れざる可く、従つて金利の顯著なる騰貴亦自ら免るゝを得ずして金融

梗塞、事業經營困難の聲は多少各方面に起らざるを得ざる可し。

三

金利の騰貴、金融の梗塞は一般に生産企業の収益を減殺し、其經營を困難ならしむるの實あり。殊に新企業の計畫は愈々困難と爲り、基礎薄弱なる企業は縦令は將來の發達大に有望なるものと雖も等しく其壓迫を受けて經營の進行大に困難と爲らざるを得ざるものなり。然れば此金利の暴騰急激に起り金融頓に梗塞する場合に於ては幾多の薄弱なる企業は或は倒産し、或は其事業を中止するに至り、企業家資本の損失する者相次で生ずると共に幾多の労働者は解雇失業の厄に陥り、或は勞銀所得激減の不幸を見るに至るを常とす。産業界の恐慌時に際して常に見るの慘狀は即ち是なり。縦令は恐慌の慘狀を呈するに至らずとするも、金融緊縮の爲に兎に角企業家並に労働者の購買力の減殺せらるゝは疑もなき事實にして此事實あるが故に通貨縮少金融の緊縮は物價の低落を促すの效果を生ずるなり。惟ふに今日通貨緊縮論者が物價調節の爲には一部の薄弱なる企業殊に不健全なる企業を壓倒するも辭する所に非ずといふは蓋し斯る結果の必至を認む

るが故に外ならざる可し。

何れにしても通貨の緊縮、金融の梗塞は企業勃興の勢を殺ぎ甚だしきに至りては其經營の停滯を惹起せざるを得ず。従つて多少生産の發達を妨げ、増加し得可かりし生産物の産出を減退せしむるの結果なきを得ず。換言すれば斯る障害の起らざりし場合に比し物資供給の減少を來たすの實あるなり。通例不景氣期に於て生産の萎微振はざるの觀あるは即ち之が爲にして、不景氣期愈々繼續するに従ひ物資益々缺乏し、其缺乏の甚だしきが爲に遂には其價格騰貴を見るに至り此に景氣恢復の曙光を認むることゝ爲るも亦此物資缺乏より生ずる究極の結果たるなり。金融緊縮には斯る結果の伴ふあるが故に、往々景氣勃興し投機的企業旺盛を極め生産過剰の弊漸く其兆を示さんとするに際しては深慮ある財政當局者は未だ其反動の襲來せざるに先だちて先づ牖戸綯繆の策に出で、金融を緊縮して事業勃興の勢を沮止し、其反動の大害を未萌に豫防するなり。而して當今の我が通貨緊縮論者の如きも其論調より察すれば亦必ずや現下の物價騰貴を見て近き將來の反動を杞憂し之を未萌に防がんとする者なる可し。若し果して然りとせ

ば頗る肯綮に當れるの議論なるが如しと雖も、併し我が現今の物價並に事業界の趨勢が果して近き將來に急激なる反動來を懸念せしむるが如きものなるや否やに就ては吾人は又多少の疑なきを得ざるなり。

普通の場合に於て物價の激騰、企業熱の勃興が將來を懸念せしむるは、物價の昂騰、事業收益の急増に激成せられて實際の需要即ち購買力に相當する以上の多大の企業の企畫せられ、其企業の企畫經營未だ完からざるに既に早く需要は充分に満たされて所謂る供給過剰の弊漸く眼前に迫るに至るの憂あると共に、又一方には其物價騰貴の爲に輸出減退し輸入却つて増加して通貨緊縮金融擁塞の事實將に此方面より惹起されんとするの虞ある場合に在り。慧眼なる識者が中央銀行又は政府當局に對して通貨收縮策の急施を要求するは實に斯る場合に在るなり。然るに我が經濟界最近の形勢には果して斯る憂虞を抱かしむるの事實存在せりや否や。

實に我が物價は最近著しく騰貴せり。各種の事業擴張並に新企業も亦著しく勃興せり。一二の事業に在りては生産過剰に至らんとするの憂すら之を認め得

ざるに非ず。然れど概括して之を觀れば最近に於ける我が物價の騰貴は時局に伴ふ輸出の激増に其端を發せり。輸出先づ激増し、輸出貨物先づ暴騰して、輸出品關係者の收益及び購買力激増し、此購買力の激増は延ひて一般物價の上に波及せるの狀あり。而して其輸出は爾來種々の障害の發生せるものあるに拘らず依然として増加の勢を繼續し、特殊の妨害を蒙れる數種の商品の外、輸出の方面は其數量と共に益々増加しつゝあるなり。價格の騰貴に拘らず海外の需要は益々多きを加へつゝあり、従つて其生産従業者の收益も亦益々加はりつゝあるなり。戦後或は歐米の競争の爲に生産過剰に陥るの危険なきに非ざる可しと雖も、戦争の終期今尙ほ卜知す可らず、加ふるに平和克復せられたりとするも多年の戦闘に其勞力と資本とを擧げて破壊的事業を事とせる各國に直に其輸出的生產力を恢復して世界各方面に其經濟的競争を開始す可しとも信せられざるの今日に於て、遠き將來の競争を懸念し、今日よりして退嬰的に生産緊縮を實行せんとするが如きは餘りに小心に失するものに非ざるなきか。又縦令ひ平和克復後に於て直に歐米諸國の競争を受くるとするも、當分持續す可き我が現下の好景氣期に於て充分に

我が企業家の生産能力を發揮せしめ、海外に其販路を擴張せしめ且つ充分なる收益に其資力を充實せしめて後日の競争に對する經濟的實力を備へしむるは眼前の急務に非ざるなきか。思ふて此に至れば特に人爲的に事業の勃興を抑止せんとするの政策は吾人は益々其眞價を疑はざるを得ざるなり。況んや目下の海外貿易の事情に於ては縦令ひ物價騰貴するも輸出減退輸入増加に依りて正貨流出し金融梗塞して此に恐慌を起すが如き懸念殆ど全く存せざるに於てをや。

四

要するに現下の如き國際貿易市場の關係に於ては我が生産業の發達に緊縮壓迫を加ふるが如きは非常なる不利益なり。經濟上退嬰自給以て東洋の一隅に蟄居せんとせば即ち止む可きも、苟も戦後の世界經濟場裡に充分に其羽翼を延ばさんと欲せば生産業は充分之を發展せしめざる可らず。縦令ひ物貨調節の爲に消費の節約を強ひ下層人民の零碎資力を吸收するの策を講ずるとするも企業家の事業資金は充分に之を供給するの道を講せざる可らざるなり。

加之、現下の我が經濟狀態より觀れば縦令ひ通貨を緊縮し、金利を向上せしめて

企業勃興の勢を沮止するとするも、其本來の目的たる一般物價の低落は容易に之を實現し難かる可し。蓋し物價の騰貴は殆ど世界各國共通の大勢にして通貨の膨脹も亦等しく各國共通の現象なればなり。即ち主要なる交戦國の何れに於ても通貨は概ね戦前の二倍乃至三倍に上り、物價は一般に二倍以上に達せり。此點より觀れば我國の如きは通貨膨脹に於ても將た又物價騰貴に於ても大に歐米の後に在り、最近一年半の激増と暴騰とに依りて僅に此世界的な大勢に接近し來れるの狀あるなり。果して然りとせば世界の此大勢の外に孤立して我國獨り其物價平均を低位に維持し、其通貨を一程の少量に止め得可きやは頗る疑はざるを得ざる可し。蓋し我國の物價にして現今の程度以下に遙に下りて例へば戦前の如き低位に在りとせんか、今日に於てすら尙ほ其需要を加へつゝある海外諸國の我が貨物に對する需要は更に一層の甚だしきを加ふ可く、輸出は益々激増して内國に於ける其供給は著しく減少す可く、而して其供給減少は結局市價の騰貴を促さざるを得ざればなり。縱令ひ通貨の緊縮に依りて此騰貴をすら防ぎ得可しとするも、海外輸出品の騰貴は免れざる可く、従つて其生産業の擴張發達は斷えず他の内

國消費に對する需要を加へて其騰貴の勢を促すを止めざる可し。

由是觀之、我が物價の騰貴は其本源主として海外の需要激増に在り。海外に於ける物資缺乏して我が生産に對する需要激増せるが爲に其價格騰貴し、其輸出増加せるが爲に我が通貨膨脹せるなり。即ち外國に對する輸出は通貨膨脹の原因にして又同時に物價騰貴の原因たるなり。従つて通貨の膨脹を制限せんとせば輸出を制限せざる可らざると共に物價の調節も亦其手段を此輸出制限に求めざる可らず。唯々通貨の膨脹は又前述の如く内國資本の海外放資に依り能く其目的を達するの途ありと雖も、物價の調節に至りては此輸出の制限に依り内國に於ける一定の貨物供給を確保するの外復た他に徹底的の手段を求む可らざるが如し。物價調節策として通貨の收縮を高唱するの人士又同時に此輸出制限を高唱するの勇氣ありや否や。吾人は此點に於て又多少の疑なきを得ざるなり。

五

畢竟するに我が最近の物價騰貴は從來各國各地に屢々之を見るが如き局部的國民經濟的現象に非ずして世界經濟的一般的の現象なり。苟も經濟的國際關係

の圏内に立つ以上、我國獨り之を免れんとするも容易に其目的を達す可らず。殊に我が國民經濟の見地よりして將來の海外貿易場裡に於ける活躍を冀望する以上、輸出の制限は容易に之を實行し難しとせば現に發展しつつある生産業に緊縮束縛を加ふるが如きは之を慎まざる可らず。現状を目的として計畫進行中に係る企業の如きは其計畫を遂行せしめざる可らず。若し然りとせば今日現に流通しつつある通貨に更に一段の緊縮を加へ金融界の緊縮産業界の萎縮を喚起するが如きは須らく之を避けざる可らざるなり。

さはれ吾人は敢て通貨の無限の膨脹を是認せんとする者に非ず。通貨の急激なる膨脹、物價の非常なる暴騰の弊害は充分之を認めざるに非ずと雖も、通貨の膨脹一度今日の域に達し物價の騰貴亦今日の程度に到れる以上、強ひて之を引下ぐるの得失如何を疑ふものなり。蓋し物價暴騰するに際しては其暴騰の利益を享受せる者と然らざる人士の間に著しく財産及び所得の不權衡を來たし、經濟生活上幾多の不安と不平とを喚起するに至るの常なりと雖も、物價一度其高位に止まりて甚だしき變動なきに至る時は各種の所得亦早晚之に適應して自ら均衡を得

るに至り、一切の不安不平自ら消散するに至るものなり。唯々此均衡に歸するの間多少の長時日を要するが故に物價騰貴の趨勢永く持續する場合には不安不平亦自ら繼續して止むなきの狀ありと雖も然かも是れ一時的の現象のみ。物價の騰貴又は下落の弊害は其高位又は低位に在るが爲に非ずして其變動の持續に在り。經濟生活の安全の爲に物價に必要なは其平靜不變なるに在り。而して此點より觀れば今日の物價を更に引下げんとするは更に一部の人士の不安を加ふるに過ぎず。寧ろ之を今日の程度に止め、其所得未だ此物價に適應するに至らざる人士の所得をして速に之に適應するに至らしむるの途を講ずるに若かざるなり。

此見地よりして之を觀れば物價調節策としての通貨問題に對しては吾人は通貨の數量を今日の程度に止め、爾今唯々生産の増減に應じて適度に之を増減せしむるの外、狠に之を増さざるに努むるの必要あるを覺ゆ。即ち輸出超過依然として繼續し、通貨膨脹の趨勢依然止まざるに於ては適當なる海外放資の策を施して新に流入し來らんとする通貨を其數量丈け海外に放出するの途を講ず可く、斯く

て以て通貨膨脹の源泉を擁塞すると共に、一方には著しき金融の擁塞に依りて産業界の進運を妨ぐるが如き施設を避け大に生産を増加して其増加をば輸出額以上に出でしめ以て大に國內の貨物を潤澤にするの途を講せざる可らず。従つて通貨收縮論に對しては若し其收縮の意義單に膨脹制限に在りとせば吾人敢て疑を挾まざるも、膨脹制限以上更に絶對的に之を緊縮するの意なりとせば吾人は大に疑なきを得ざるなり。

物價の騰貴に對する政策としては種々の方法と議論の存するあれども、そは吾人の此に云はんと欲する所に非ず。吾人の此に言はんと欲するは物價調節の手段としての通貨收縮策に在り。斯策は一見頗る單純なるが如きも少しく結果を顧念する時は如上幾多の疑義を覺えざるを得ず。即ち録して以て大方の教を乞はんとする所以なり。(天正七年九月二十日稿)

英國の封建制度

占部百太郎

英國に封建制度の輸入せられしはノルマン征服の結果に外ならず。ウイリアム第一世(戰勝王)が英國の上下に通ずる凡ゆる制度を封建的鑄型に投じて、全然其の政治及び社會組織を改造することを得しは、一國の領土を擧げて一先づ之を彼の手に沒收したる戰勝の賜なりき。下文に述ぶる如く、第拾一世紀の英國に於ては既に封建制度の素地は在りしも、此の素地の上に當時歐洲一般に行はれし封建制度を建設したるはウイリアムの事業なりき。故に英國の封建制度を了解せむと欲せば、須らく先づ歐大陸殊に此制度の母國たる佛蘭西の夫れに遡て研究せざる可らず。

最初佛國に發生して、後漸く歐洲に傳播せし封建制度(Feudalism)の起原を釋ぬ